

# 園内餅つき大会に参加して

令和2年12月10日



## 入所者との交流を自分の看護にどう活かしていくか 1年 竹下 裕治

今年は入所者さんとの交流ができるイベントが少なく、久しぶりに交流が行えた。

私はつきたてのお餅やお茶の配膳を行ったが、入所者さんは笑顔で接してくれたので少し緊張がほぐれた。初めて会うときはだれでも緊張するもので、患者さんと初めて接するときも同じものではないかと思った。この笑顔という非言語的コミュニケーションは円滑な人間関係を構築するためにとっても重要で普段、無意識に行っているが、看護に取り入れていくには意識的にこの非言語的コミュニケーションをとることが必要であると改めて思った。

また、入所者さんだけでなく、目上の人と交流するときは、その人に合った態度で接することが必要だと思った。それは、今まで生きてきた人生の先輩という敬意を表すことがその人を尊厳や人権尊重につながると思ったからである。

2年になると領域別実習が始まり愛生園でも実習をさせて頂くと思うが、今日の餅つき大会での経験を活かしていきたいと思った。

## ～餅つき大会に参加して～ 1年 村上恵美子

今日は、ハンセン病療養所の入所者の方の「園内餅つき大会」に参加させていただきました。

実際に入所者さんが餅つきをされることはありませんでしたが、餅つきの様子を見たり聞いたり、また看護師の方と会話をし、お茶を召し上がりながらお餅を食べ、とても表情を明るくされているのを見ることができました。このような行事は、季節を直に感じたり、昔を思い出したりができる時間となられているように感じたのと同時に、表情がとても良かったので、楽しみにされているという意味が分かったように思いました。

入所者さんから、少し話をしたいといただき、「餅つき大会は毎年來られるのですか」と尋ねると「年寄り餅がすきだからね」と話してくださいました。少しの時間でしたがお餅を運ぶだけでなく、入所者さんとも会話をさせてもらったこともとても貴重な経験となりました。

入所者さんの年に一度の楽しみをコロナ禍でも、繋いでいくために、職員の方が、試行錯誤して工夫をこらし安全に配慮して今回の企画を運営されていました。そのような姿を見させていただけたことも、今後の自分の看護に活かしていきたいこととなりました。人を思い、どのようなことを望んでおられるのか、楽しみは何かなどを考えて関わるのが、やさしさ、思いやりを持つことなのではないかと改めて感じることができました。

参加させていただいて、ありがとうございました。

